

## 2 生活に関すること

### 18 偏食のあるAさん（小学校・低学年）

小学校1年生のAさん。Aさんは、食べ物に強いこだわりがあります。給食がとても苦手で、食事にかかなり時間がかかります。例えば「白いご飯は食べられるけれども、混ぜご飯は食べることがほとんどできない」や「ヨーグルトは好きだけでも、〇〇会社の〇〇ヨーグルトでないとおいしさを感じない」といったように、味に対してかなり敏感です。また、野菜は全般的に苦手です。家庭でも母親がいろいろと工夫をしながら食事を作っていました。なかなか食べられるようにはならず好きな物だけを食べる毎日を送っています。給食では様々な食材を食べてほしいという思いから、担任に母親から相談がありました。どう配慮していけばよいでしょうか。

#### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎触覚に隔たり（過敏や鈍磨）があるため、特定の食物の食感が苦手として現れているため
- ◎「歯触り、舌触り」といった口の中の触覚に対して生理的に身構えてしまう状態が出てしまっているため
- ◎ある味付けが苦手だったり、濃い味を好んだりすることがあり、同じように臭いに対しても現れるため

#### 合理的配慮・具体的な支援(例)

##### 1 無理強いをしないように配慮する <①-2-3>

- 給食指導の場面で、みんなと同じように全部食べることを目標とすることがないように配慮した。Aさんに食べられそうな物や量を一緒に確認をしながら、配膳をするようにした。
- 食べることそのものが嫌いにならないように、焦らずに進めることを家庭とも確認しながら取り組んだ。



## 2 スモールステップで意欲的にチャレンジさせる <①-1-2>

- 「苦手な物でも、下唇に触れてみよう！」からのチャレンジ。味覚や触感を受け入れる体験づくりに取り組んだ。チャレンジしたことを認めながら、焦らずに、時間をかけて取り組んだ。
- 「舌の先で、味を確かめてみよう！」のチャレンジ。ここでも下唇と同じように、無理なく時間をかけて取り組んだ。チャレンジしたことを認めていき、やる気につなげた。
- 「一口だけ、食べてみよう！」へのチャレンジ。苦手な物でも食べることができたという達成感を高めていくことに取り組んだ。



## 3 周囲の理解・クラスでのルール化を促進する <②-2>

- Aさん程ではないが、クラスの中でも苦手とする食材がある児童がいる。そこでクラスでのルール（共通の理解）として「苦手な物でも、一口チャレンジをしよう！」として取り組んだ。そうすることで、Aさんだけが頑張るのではなく、みんなそれぞれの段階に合わせてのチャレンジをするというクラスの雰囲気ができあがった。

## 4 家庭との連携を進める <②-2>

- 面談や連絡帳をとおして様子を伝え合い、情報を共有し合った。学校だけで取り組むのではなく、家庭でもできるだけ同じように取り組むようにした。また、温度による過敏さも考えられたので温め直して食事を出すことで、食べられる物も増え始めた。学校では難しい対応でも、家庭で工夫することで、更に食に対する興味・関心の幅が広がってきた。



「みんなで食べると、楽しいな！」  
「美味しそうに食べているな！」  
「ちょっと私も食べてみようかな！」

※アレルギーがある場合には、医療機関との連携が重要です！

## 19 生活上のきまりを忘れてしまうBさん (小学校・中学校)

Bさんは、学校生活を送る上で、いろいろなきまりを忘れてしまい、周りの児童から指摘されて困っています。その場で正しい方法を伝えてもなかなか覚えられません。どう配慮していけばよいのでしょうか。

### どうしてそうなるの？(考えられること)

◎きまり事を生活場面と対応させて考えたり、その場にふさわしい行動として表出したりすることが難しいため

#### 1 視覚的な情報を提示する <①-1-1> <①-2-1>

○きまりを意識してほしい場面に、行動を促す視覚的な情報を掲示することで、きまりを守ることが「できる環境」をつくる。

#### 児童生徒用靴箱の使い方についての支援

Bさんが使う靴箱付近に、正しい靴の入れ方を写真等で掲示します。



靴箱に靴底の型を貼り、置く位置を明確にします。

合理的配慮・具体的な支援(例)



### 清掃活動場面での支援

身支度の仕方や使う道具、そうじの手順などについて、イラストを加えて提示することで内容を捉えやすくします。



片付け方の写真を、清掃用具入れの扉の内側に掲示することで、それを見ながら何をどこへ掛けたり、置いたりすれば良いのかが分かりやすくなります。

### 位置の統一や、明示による「できる環境づくり」の支援



連絡事項を提示する場所として、教室の背面黒板に校内で統一する。これにより、どの教室においても同じ場所を確認すればよいこととなり、不安の軽減につながります。



机を並べる時や、便器の前に立つ位置を、テープや足型などで明示することで、自らきまりを意識した生活を促します。



足型



小便器に目印(専用シール)を貼ることで、意識を集中することができ、飛散防止にも役立ちます。

## 20 整理整頓が苦手なCさん（小学校・低学年）

Cさんは、片付けや整理整頓が苦手で、机の上や周りに物がちらかっています。机の中やロッカーもぐちゃぐちゃになっていることが多いため、なくし物や忘れ物が頻繁にあります。一つ一つ声をかければ片付けることができますが、「片付けなさい」と言われると何をどうして良いのかわからなくなってしまい、「できない」「面倒くさい」と言ってやることができません。どう配慮していけばよいでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

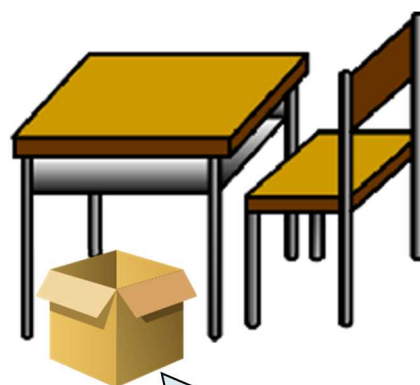
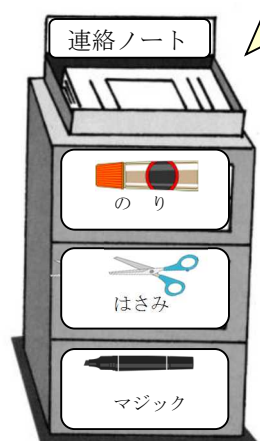
- ◎片付け方や整理の仕方をうまくイメージできないため
- ◎途中で注意がそれてしまい、最後まで片付けられないため
- ◎今使うもの（必要な物）と、使い終わったもの（不要な物）との区別が難しいため
- ◎記憶力が弱く、片付ける場所を忘れてしまうため

#### 1 片付けがしやすい場を用意する 〈③-2〉

- 使い終わったものを入れるかごや袋を用意したり、机をもう一台つなげてスペースを広く使ったりして、落し物を少なくする。
- みんなが使うものは、入れる場所が分かるようにラベルを貼る。

合理的配慮・具体的な支援(例)

子どもにとって分かりやすい目印やマークを付けることで、整理しやすくなります。



使い終わったものは、箱に入れていくことで、今必要なものが分かりやすくなりました。



## 2 片付けや整理の仕方の型を決める <①-1-1> <①-2-1>

- 「何を」「どこに」「どのように」片付けるのか、型を決めておくようにする。ロッカーや机の中、工具箱などの内側に仕切りを設けたりきちんと入っている写真や絵などを貼っておいたりすると、視覚的にも確認でき、片付けやすくなる。



絵を見ながら、自分で片付けることができようになりました。

整頓された引き出しやロッカーを写真に撮って示すのも有効です。

## 3 整理整頓の意識化を図る <①-2-2>

- 不要な物は、なるべくこまめにしまうよう授業の要所で個別に声かけを行う。配付物については、配付した後にはどうすればよいかまでを具体的に伝え、見届けるようにする。使いやすい連絡ファイルや提出用のクリップなども使用し、自分で整理する機会を増やす。



手紙は、ファイルに綴じます。  
出来た人は、隣の人と確認しましょう。  
確認できたら、かばんに入れましょう。

## 4 学級全体で取り組む <①-2-1>

- 学級全体で持ち物整理の日や整頓タイムを設け、みんなで整理整頓を意識することで、無理なく取組を進める。

## 21 整理整頓が苦手なDさん（中学校）

中学校では教科ごとの授業でたくさんのプリントが配付されます。片付けや整理整頓が苦手なDさんは、机の中やかばんにぐちゃぐちゃのプリントがいっぱい入っています。机の中やロッカーは次々と物を入れてしまうので、必要なものがすぐに取り出せず、行動が遅れてしまうこともあります。テスト前に授業で使ったプリントがなくていつも慌てています。どう配慮していけばよいのでしょうか。

### どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎片付け方や整理の仕方をうまくイメージできないため
- ◎しまった場所や使ったことを覚えていないため、必要なものを探しているうちに更に散らかってしまうため
- ◎片付ける習慣が身についていないため
- ◎他のことや次のこと気をとられ、片付けに意識が向かないため

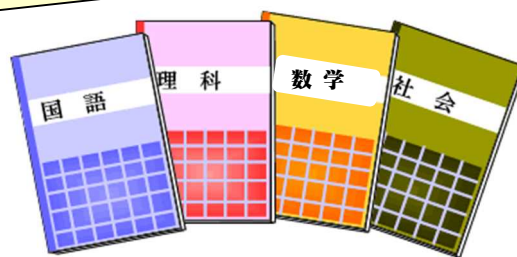
#### 1 整理がしやすい環境をつくる 〈①-1-1〉

- 教科別にノートやファイルの色を変え、まとめて整理しやすくする。
- 教科ごとに教科書・ノート・プリントなど必要な物をクリアケース等でまとめておき、かばんから該当の授業のクリアケースのみを出し、授業が終わったらすぐにかばんに戻す。

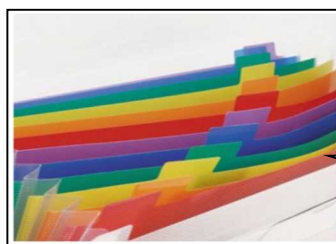
合理的配慮・具体的な支援(例)



教科ごとにノートやファイルを同色にします。



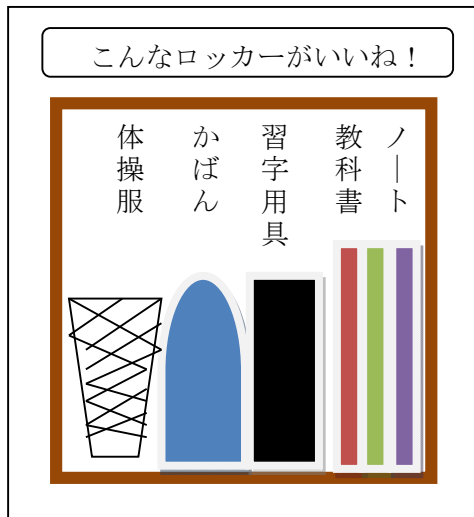
各教科の授業に必要な物はケースの中に入れておけばよいので、分かりやすくなりました。



配られたプリントは、各教科の色のところへ入れておけば、必要な時に使うことができます。

## 2 学級全体で取組む <①-2-1>

- クラスのルールとして、生徒が使用する棚やロッカーの整理の仕方をプリントにして配付、掲示する等自分で確認できるようにする。
- 授業の始めには使うものを確認し、必要のないものは片付ける時間を設ける。また、授業の終わりにはその授業で配付したプリント類の整理をする時間を設けるなど、クラス全員で整理整頓を意識できるようにする。



整理の仕方が一目でわかり、みんなが同じように整理するので、整理がしやすくなりました。

## 3 整理整頓の意識化を図る <①-2-2>

- きれいになっていることをほめるようにする。片付いていることが便利であることを実感できるようにする。
- 片付ける方法が分かるように具体的な言葉で、片付けを促すようにする。



「きちんと片付けなさい。」ではなく、「ノートは机の中にしまえます。」というように、具体的な指示を出します。